

く。五十年に近い断絶ではあるが機会があれば是非会い度いものと思ふ。鈴木商店は俊秀の集りで一くせも二くせもある人物が多かったが中尾は中でも傑出した一人であった。此処での起居は一年半程続いた。米騒動の大事件に遭遇したのもこの宿舍時代の事で店との連絡の便が悪かったので右往左往してキリキリ舞をした。教育係も岩屋の連中は少し可愛想だと思ってくれたのか「オリピヤ」へ転居の指令が出た時は天にも登る心地がした。そして第一話で書いた様に大正八年の末布引へ移る事になった。

(六) 柳田済美寮

何んな都合かはしらぬが宿舍運の悪い私等は又々オリピヤから放逐さ

俳句 日章旗 柳田 義一
唄の忌 花の哀調 茎立ちて
合掌を 解けばば激しき雨あがる
再び遇うことも無き遍路が鈴ひそめ
日章旗が焦点踊り場の噴水かげはう
迫る産月白菜横に抱き帰る
ばらが散る遅れし婚期や付け睫毛

れた。四度目の落ち行く先は之は又結構な中山手三丁目の柳田はんの居室の一部である。一年半程の間に四度も引越しをさせられたのである。後に午鈴会と称した私等のこの一群だけが一番多く済美寮を遍歴したものだ。柳田はんの本宅へ転り込んだ様な私等は漸く此処に安住の地を見出した様にホッとした。あの頃は店の一番盛んな時で次から次へと店員や見習員が増えて、それも殆んどが独身者であったので「ねぐら」を増設するのに教育係や庶務係が躍起となつて居た。その波紋が柳田はんの本宅迄波及したのだろう。邸宅の敷地内に別棟の建物として二階洋館風の棟があった。本屋とは生垣を以て区切られ完全に分離されて居た。前庭一面に青々とした芝生が密生し周囲はすっぽり樹木にかこまれて本屋とは全く別世帯の寮舎に切り離して使わせてもらった。内部は上下四室に別れ一室の広さは十畳敷程あり四名乃至五名が収容された。只残念な事は洋室造りである為に各室共押入れがなく夜具を室の片隅に積み上げておくしかなかったのが欠点と云えば欠点と言える位で、その他の事では申分がない。第一店へ通うのが一番近くなったのが何より有難かつ

た「柳田済美寮」と云う堂々たる看板表札もなかったし専用のピンポン台も備え付けられた。亡くなられた彦次さんが中学生になり立てのほやほやで、多勢の小僧が柳田邸の平和に割り込んで来たのに驚いたらしいが間もなく遊び仲間に加わり寮室へ度々遊びに来た。後に安東家へ嫁せられた妹さん(幸子)も物珍らしげによく侵入して来られた。小学生に成るや成らずのあどけないお嬢ちゃんだった。大柳田はんは日野さんと特に親しかったので私が会計部に居た関係上顔と名前を知られ時たま本宅の私用に名指しをされた。そんな事が無性に嬉しく光栄にも思えた。或る晩、アンチピリンか何か風邪の薬を買って来る様に頼まれたがお嬢ちゃんが一緒に行くと言ってきかないので止むなく手を引いて生田通りのあたり迄行ったが帰りの途中で玩具屋の店先で目に付いたものがほしいと駄々をこねられ往生した事があった。本宅へ帰り着いた頃は半べそで涙を一ぱいためて居たのを私は重大な失策をした様に感じどくどくと言訳をしたら奥さんから却て労をねぎらわれ五十銭札を一枚下さった。忘れ様にも忘れられない思い出である。私等の仲間は運動に勝れた神経

続スラバヤ懐古

宇津木亥一

出来ぬ状態にあるので悪しからずとのお知らせを頂きました。

一月二十一日大阪東洋ホテルの新年宴会へ行くと、藤原恒三郎氏夫妻は列んで卓につき、荒尾某氏の珍談を破顔で聴き入って居られるので之は大丈夫だと感じたが、しかし安藤珍成氏のお顔は見えません。

昨秋十月十五日京都細川別邸の例会には、紅葉にはまだ少し早い迎賓閣の中庭に入るや否や藤原恒三郎夫妻に出会った。此頃は肉付きも豊かに御健康そうに見受けられますと云うと、否、そうでは無いとの答です。どうぞ無理をせず随分お気を付けて下さいと云ったのですが、同じ庭の床几に腰掛けて安藤珍成氏には、御健康で誠に結構です。長生きすればまたお目に掛れますから、ご大切に御挨拶しました。

宴に入るに先立ち藤沢次郎氏の逝去が報せられました。戦後の有名な鉄鋼庁長官であったが余りに早世、甚しく衝撃を受けました。そして帰宅後、間もなく「スラバヤ懐古」を原稿に記しました。当時の寺崎、大久保両支店長は、安藤珍成バタバヤ支店長とともに揃って御健在なことは慶賀にたえぬと書きました。すると今春年賀の季節に入つて、安藤氏の御令息、芦屋の奥田充幸氏より父は賀状の筆を執ることが

今夏五月七日には奈良依水園の御家様、御主人様の法要に伺ったが、朝からの相憎の雨で、法要のさ中には、天の底が抜けたのではないかと疑われる程の大雨です。二、三百名の列席者は天幕の下で身動きもできず、時々目に入る旧友に対して、手を挙げたり、眼や顔で合図するだけで、お話などは通せないほどの雨風の音です。漸く雨も止み、風も鎮まったので新緑に映える天下の名園に立ち出でて園遊会が始まったのですが、なかなか誰が誰か認識も不可能な混雑です。木畑幹事がマイクで大声に、これから記念撮影をします。雨の晴れ間を利用しての撮影で

すから直ちに池の辺りに集って下さい。早く早くと急ぎ立てるものから、折角握っていた盃を惜しくも投げ捨て、雨で濡った足許の危い芝生を踏みしめ、踏みしめ築山へ向って集合すると、其処に図らずも安藤氏を発見しました。堅い堅い握手です。バタバヤ時代には世にも美しい奥様を擁して天下を睥睨して居られた大正十一年頃を懐い出してお話まで交換しました。然し藤原氏夫妻の御顔は見る事が出来ず、雨風のためとは申せ本意ないことでした。スラバヤ生活と庭球は切り離せぬ関係があった。四季とも夏の暑さである。旺盛な新陳代謝に伴う体力の消耗を防ぎ、栄養を完全補給して運動することが強く要請された。退社後の一、二時間、太陽が没して薄暗くなるまで交替でボールを打つての猛練習です。在異邦人商社の社宅には大概コートが有ったので年々乾燥季には全テニスマン一〇〇名内外のトーナメントを行うと共に、招待大会を開いた。その季節には番組の編成から、当日のサンドウィッチ、ビールの立食宴の献立までサーブに力を惜しまなかった。わが藤原氏は当社の第一選手であり常に花々しい

を持って居る者が多かった。澎湃として起った本店内の野球熱に刺戟されて私等も「柳田ベ이스クラブ」つまりYBCを結成した。投手に田庭、染本、捕手木畑、内野手魚田、吉野、斎藤、竹村、外野手高田、中元、内藤、難波と云った陣容である。再度山の池蹟広場や鳴尾製油所の空地へ練習に出かけて製油所のチームや兵庫の魚油工場等とも試合をした。本店では「イーストクラブ」と云うチームが編成されて、投駒井捕西部、内野肥後、山田、小林、明神、外野伊藤、森田、久野等錚々たる連中が揃って居た。此の柳田寮へ移ってから朝早く垂米三倶楽部で庭球をやる事が出来る様になり爽やかな朝の一時を満喫してから出勤する等時間的にも大いに恵れる事になった。小僧風情の生意気盛りで、ラケットのケースを提げて中山手通りを闊歩したあたり得意の絶頂であった。この頃巷間では「ゴンドラの歌、沈鐘の歌、城ヶ島の雨」等の流行歌曲が氾濫し好景気は漸く細部迄浸透して世は挙げてよき時代を謳歌した。今で云う「古きよき時代」の典型的な一時代であった。

倶楽部の会員となり、休日には数頭を連れて数十キロの郊外へ遠乗りされてきた。大久保弥十郎氏がシंगाポールから着任されてのち、ゴルフが急に流行した。ゴルフは同氏が輸入されたような形で、会員も次第に増加したが、トーナメント毎に優勝盃はいつも同氏の手に残っていた。早晩と夕方とは空気が殊に清澄で涼しく爽やかである。住宅の露台は裏のストラバヤ川に面し広々としていたのでその手摺りに好きな植木鉢などを列べ、朝な夕な閑さえあればクラブを振って居られた。基本体形が最も肝要である旨をじゅんじゅんと教えて居られた。現在は吹田市で気の向く時には、遠くへでも出向いて魚釣を楽しみにして居られます。

戦後二十数年の今日と違い、若い社員が自らドライブを楽しむという時代ではなかった。道路と自動車は我が国より数歩進んで居たが、降誕祭やイースターを利用して郊外の山荘やホテルなどへハイヤーを駆って避暑旅行に行くのが最上の楽しみであった。道路は鏡の如く直線コースでもあり、五、六〇キロはおろか一〇〇、一二〇出しても左程の震動無く快走した。事故の噂は聞いたが、わが社には異変は無かった。郊外一時間半余飛ばすと丘陵地の高原に山荘があり、温度も一〇度は低く牛、山

羊、豚、鶏が豊富に飼ってあり、大きな水泳プールがこんこんと冷水を湛えていた。適当な位置には風通しの良い洋館が点在していて、幾晩も泊り込み新鮮な牛乳や鶏卵、美味な馬鈴薯を満喫するのが常であった。太平洋戦争の昭和十八年にはボルネオ日沙商會へ行き、終戦時はテゴラの水銀鉱山の奥山深くに、五ヶ年分に余る食糧、資材を備蓄し、長期抗戦の態勢を整えたのでしたが、北ボルネオでの結果はすざましい終局でした。しかしテゴラの涼しい山寮に風呂を焚かせて、暮れ行く西空を眺めつつ、湯をつかって居る時にはその極彩色の夕空の壮観に打たれてしばし恍惚となつて居りました。今日の精巧なカラーフィルムでも之を再現することは到底覚束ない。窓から見下す濃緑の山波、千年フェツを入れたいジャングルの森林が地平線まで展開して居るのです。

ストラバヤはジャバ東端の開港都市であり、わが大坂と同じ役割の大都市である。オフィス街も、マーケットも、支那人街も、デパートもあり諸機関は整備されていきました。或は郷愁にかられてか帰朝した友人もあつたが、自分はその生活に馴れ五ヶ年近く無事に成し遂げました。限りある紙数では総てを尽すこととは思いも及びません。此の辺で終ります。

辰巳会幹事一覽表 (〇印は支部長)

会長	高畑 誠一
本部幹事	今村冬二郎 今村 頼吉 大幡 久一 小倉 五郎 橋本 隆正 畑 薫 柳田 義一 米田 幸吉
東京支部幹事	○西川 政一 河合 一雄 齊藤 扇吉 坂本 寿 田代 義雄 益子 史郎 山下 元徳 宮 三要
中部支部幹事	○秋元 鷹男 伊藤 庄次 竹下富士松 伏見 俊助
四国支部幹事	○東条 順吉 小松 豊秀 刈谷 勇馬 竹崎 浅吉 藤沢 清治
九州支部幹事	○松本 通 小樋井正夫 松本 得一 森本克之助 米倉 勇
北海道支部幹事	○町田 叡光 加治彦太郎 本間 勇児 山口 義雄 横田 周作
	小川実三郎 小野 三郎 木畑竜治郎 中井 義雄 福田 秀吉 松岡 俊一 松下 重男
	楠木 直美 小島 実 嶋内 義治 鈴木 丸衛 宮 三要 山成 卓爾
	滝上 弁二 西 茂 横庭亥一郎 深谷 良一

哀 悼 録

氏名	逝年 月 日	夫人・嗣子	住 所 (TEL)
篠原 正次	昭6.2.4	靖 勉	日商岩井KKロンドン支店
渡辺 繕 踪	20.12.12		〒661 尼崎市武庫荘西住宅303号 大阪421-4100
安藤 牧三郎	29.4.2	さわの 克彦	657 神戸市灘区八幡町4丁目8-24 神戸 86-4047
田中 淳一	32.12.14	愛子 泰久	110 東京都台東区谷中2-5-11(谷様方)
山本 泰正	40.11.5	宇田芳子	532 大阪市東淀川区相川北通2-22 大阪329-0842
中岡 都治	44.5.8	栄子	780 高知市西洋町29
橋本 政一	10.15	チカエ	165 東京都中野区若宮1-39-1 東京385-0789
牛尾 正英	12.20	治子	657 神戸市灘区神の木通2-43 神戸 86-5763
浅野 茂治郎	45.2.3	鹿尾 健一	790 松山市三番町1-6-6 松山 21-7297
南村 悌藏	2.5	照彦	651 神戸市葺合区八幡通5-6-16 神戸 23-9654
木村 君子	2.10	義一	801 北九州市門司区丸山町1 門司 32-0002
(準) 芳川 威八郎	2.15	精一郎	665 宝塚市塔の町1-17 宝塚 87-3450
泉 憲 彌	2.26	駿郎	659 芦屋市打出小樋町78 芦屋 21-5497
浅倉 忠 彌	3.24	孝介	662 西宮市松並町15-18
渡辺 和 郎	3.29	和夫	417 富士市吉原局区内長者町7-1
日高 雄 衛	4.15	喜代子	654 神戸市須磨区月見山本通1-7-9 神戸731-0779
島崎 兵衛	4.15	栄一	180 東京都武蔵野市吉祥寺南町2-14-5
遠山 守 次	4.15		150 東京都渋谷区南平台町16-15
松尾 良 次	5		165 東京都中野区若宮3-21-21 東京391-3788
高橋 亮 盛	45.7.23	純次	658 神戸市東灘区森天神1-1 神戸 43-8986
沢村 井 盛	7.25	初枝	606 京都市左京区下鴨藪ヶ垣内町23 神戸781-6033
亀 井 盛	8.1	宰	560 豊中市南桜塚町3-12-4

躍 進 する 大 企 業

株式会社神戸製鋼所
社長 外島 健吉

帝人株式会社
社長 大屋 晋三

日商岩井株式会社
社長 西川 政一

太陽鋳工株式会社
社長 高畑 誠一

羽幌炭砒鉄道株式会社
社長 町田 叡光

横田 周作